

大きな災害が起こったときは、一人ではどうにもならないことがたくさんあります。

自分の命の無事が確保できたら、次は地域や自主防災組織の一員として「自分の地域は自分で守る」活動を行ってください。

自力で避難できない人の避難支援

地域には高齢者、乳幼児、障がい者や言葉の不慣れな外国人など、災害時に自分の力で避難することが難しい人たちが多くいます。あらかじめ、自主防災組織による支援体制づくりをしておきましょう。

閉じ込められた人の救出活動

阪神淡路大震災では、倒壊建物から脱出した人の約95%は、自力で脱出するか、家族や隣人・通行人により救出されました。災害時は地域の皆さんで協力して閉じ込められた人を助けましょう。そのときは、自主防災組織が保有している救助資機材を有効に利用しましょう。

初期消火活動が大事

県の地震被害想定調査によると、南海トラフ巨大地震での松前町の全焼建物棟数は最大で5,000棟近くになると予想されています。被害を最小限にするには自主防災組織による初期消火が大切です。訓練などを通して、スムーズな消火活動が行える組織作りをしておきましょう。

また消火器の場所や近所で水が取れる場所は、必ずチェックしておきましょう。



負傷者の応急手当

災害時は、負傷者のそばにいる人が応急手当を行わなければいけません。大切な人の命を救うことができるように、応急手当の方法を身につけておきましょう。

①出血がひどいとき

清潔なガーゼやタオルで傷口を圧迫して止血します。直接血液に触れないように、ビニール袋などに手を入れて押さえましょう。

②やけどをしているとき

水道水などきれいな流水で冷やしましょう。衣服の上からやけどをした場合は、無理に脱がさずそのまま冷やしてください。冷やした後は、清潔なガーゼやタオルで包みます。

③骨折の疑いがあるとき

硬い棒状のものを副木にして固定しましょう。棒状のものがなければ、雑誌やダンボールなどで患部を巻いて固定するのも有効です。固定できたら、タオルなどで首から吊って楽な体制がとれるようにしましょう。



正確な情報収集を

災害時はデマに注意

災害時はデマなどによりパニックが発生し、大きな混乱が生まれる場合があります。テレビやラジオなどで情報を入手したり、地域の住民同士で情報を交換したりして、正確な情報を入手することが大切です。